

* 奨学生本人がこのファイルに直接入力するか、印刷して手書きにより記入してください。

海外大学・大学院

◆赤字の項目（照会番号、奨学金振込額、機関保証料、貸与終期の4か所）については、国内連絡者宛てに郵送している様式に印字された数値を必ず転記してください。

照会番号

↑ 国内連絡者宛てに郵送している「奨学金継続願」に印字された数値を転記してください

奨学金継続願

独立行政法人

日本学生支援機構理事長 殿

奨学金継続願の提出にあたっては、正しく記入することを誓約します。

誓約日（記入日）

西暦

年

月

日

奨学生番号		奨学生氏名	
現在籍学校名（日本語又は英語表記）			
学部・学科／研究科・専攻（いずれか記入）			
国内連絡者現住所（該当の口に✓）	<input type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 転居し、「住所変更届」提出済	<input type="checkbox"/> 転居したが「住所変更届」未提出

1. 奨学金振込みの継続の確認

あなたは継続願を提出して引き続き2019年4月からの奨学金の振込みを希望しますか。

※ 家庭の経済状況や卒業後の生活設計を十分考慮してください。

（該当の口に✓） 奨学金の継続を希望します 奨学金の継続を希望しません
→ 異動願（辞退）等の提出が必要です。（継続願の提出は不要。）「奨学金継続の手続きについて」4ページ参照

2. 返還の義務

奨学金制度は、意欲と能力のある皆さんが経済的に自立し、自らの意思と責任により学生生活を送れるよう支援するものです。

また、貸与された奨学金は返還する義務があります。先輩奨学生の返還金が、直ちに後輩奨学生の奨学金として循環運用される仕組みとなっており、返還金が確実に返還されないと、次代の奨学生の採用に重大な支障をきたすこととなります。奨学生ひとりひとりがこのような制度の仕組みを理解し、責任をもって返還をすることが重要です。

（該当の口に✓） 返還の義務を自覚している 返還の義務を自覚していない
→ 自覚していない場合、奨学金の継続はできません。

3. 学業不振の場合の措置

以下のいずれかに該当する場合は、奨学金の交付について「廃止」（又は「停止」）の処置がとられます。

- ・ 卒業延期が確定した（又は卒業延期の可能性が極めて高い）場合
- ・ 当年度の修得単位（科目）数が皆無の（又は極めて少ない）場合

（該当の口に✓） 学業不振の場合の処置について理解している 学業不振の場合の処置について理解していない
→ 理解していない場合、奨学金の継続はできません。

4. 学生生活の状況

この1年間の学生生活の状況（課外活動、ボランティア等の社会参加など）を記入してください。

※記入漏れ、「特になし」等の詳細でない記述、記入例の書き写しは不備となり改めて記入していただきます。

（記入必須）

5. 学修の状況

(1) この1年間の授業出席状況について、あてはまるものを選択してください。

(該当の口に✓) (a) 全部もしくははだいたい出席した (b) 左記(a)以外

上記で(b)を選択した人はその理由を具体的に記入してください。

((b)を選択した場合記入必須)

(2) この1年間の学修に対する取組みの姿勢について、あてはまるものを選択してください。

(該当の口に✓) (a) 熱心に取り組んだ (b) 取組みが不十分だった

上記で(b)を選択した人はその理由を具体的に記入してください。

((b)を選択した場合記入必須)

6. 経済状況 * (2)と(3)は大学・短期大学在籍者のみ記入してください。(大学院在籍者は記入不要。)

(1) 学生生活費の状況など、経済状況は奨学金申込時または前回の継続願提出時と比較して変わりましたか。

(該当の口に✓) 好転した ほぼ変わらない 苦しくなった

* (2) 主として家計を支えている人(父、母、祖父母など)の昨年1年間(1月~12月)の所得金額を記入してください。

- ※ 1万円未満は切り捨てて記入。 ※ 各種手当、養育費等は「給与所得」に計上。
- ※ 複数の勤務先から給与を得ていて確定申告をした場合は、確定申告書控における給与収入金額を(a)に記入。

(該当の口に✓) ([]に記入)

(a) 給与所得の場合 源泉徴収票等における支払金額 [] 万円

(b) 給与所得以外の場合 確定申告の控における所得金額 [] 万円

(c) 無職・無収入 [0] 万円

* (3) その他の家計を支えている人(父、母など)の昨年1年間(1月~12月)の所得金額を記入してください。

- ※ 母子父子家庭等によりその他に家計を支えている人がいない場合は記入不要。
- ※ 1万円未満は切り捨てて記入。 ※ 各種手当、養育費等は「給与所得」に計上。
- ※ 複数の勤務先から給与を得ていて確定申告をした場合は、確定申告書控における給与収入金額を(a)に記入。

(該当の口に✓) ([]に記入)

(a) 給与所得の場合 源泉徴収票等における支払金額 [] 万円

(b) 給与所得以外の場合 確定申告の控における所得金額 [] 万円

(c) 無職・無収入 [0] 万円

ご記入いただいた情報及びあなたの奨学金に関する情報は、奨学金貸与業務(返還業務を含む)のために利用されます。この利用目的の適正な範囲内において、当該情報(奨学金の返還状況に関する情報を含む)が、学校、金融機関及び業務委託先に必要に応じて提供されますが、その他の目的には利用されません。機関保証加入者については、機関が保有する個人情報のうち保証管理に必要な情報が保証機関に提供されます。また、行政機関及び公益法人等から奨学金の重複受給の防止のために照会があった場合は、適正な範囲内においてあなたの情報が提供されます。

3 ページへ続く

(4) 【あなたの収入】 あなたの2017年12月から2018年11月の収入（仕送りや父母等が支払った授業料・家賃等を含む）に関する金額を〔 〕に記入してください。該当がない場合は〔0〕万円と記入してください。
 ※ 1万円未満は切り捨てて記入。
 ※ 2018年1月以降に奨学金の貸与を開始した場合は、貸与開始年月から2018年11月までの収入金額を記入してください。

(a) 家庭からの給付（仕送りや父母等が支払った授業料・家賃等）	〔 〕	万円
(b) 日本学生支援機構の貸与奨学金（貸与額通知書に記載の振込額の合計）	〔 〕	万円 ←(b)は転記してください
(c) 日本学生支援機構の給付奨学金、日本学生支援機構以外の奨学金	〔 〕	万円
(d) アルバイト収入	〔 〕	万円
(e) その他（貯蓄等を取り崩した額や臨時収入等）	〔 〕	万円
★収入(a)～(e)の合計		〔 〕万円

(5) 【あなたの支出】 あなたの2017年12月から2018年11月の支出に関する金額を記入してください。該当がない場合は〔0〕万円と記入してください。
 ※ 1万円未満は切り捨てて記入。
 ※ 2018年1月以降に奨学金の貸与を開始した場合は、貸与開始年月から2018年11月までの支出金額を記入してください。

(a) 学費（授業料・施設費等の学校納付金等を含む）	〔 〕	万円
(b) 修学費（教科書、図書費、文具購入費、課外活動費、通学費等を含む）	〔 〕	万円
(c) 家賃（共益費等を含む）	〔 〕	万円
(d) 食費（外食費用を含む）	〔 〕	万円
(e) 光熱水料通信費（携帯電話・インターネット等の通信費を含む）	〔 〕	万円
(f) その他（医療費、娯楽・嗜好費等）	〔 〕	万円
(g) 機関保証制度の保証料（1万円未満は切り捨て）	〔 〕	万円 ←(g)は転記してください
★支出(a)～(g)の合計		〔 〕万円

(6) 【あなたの収入と支出の差額】 上記(4)と(5)について収入と支出の差額（収支差）を記入してください。
 ※ 収支差がマイナスの数字になる場合は収入の記入漏れや支出の計算間違いが考えられますので、訂正してください。
 ※ 収支差が大きい場合は減額指導の対象になることがあります。金額、計算に誤りがないか確認してください。

★収支差（「(4) 収入(a)～(e)の合計」－「(5) 支出(a)～(g)の合計」）	〔+ 〕	万円
※ マイナスの場合は訂正が必要		

(7) あなたの経済状況を具体的に説明してください。
 ※ 記入漏れ、「特になし」「変化なし」等の詳細でない記述、記入例の書き写しは不備となり改めて記入していただきます。
 ※ 奨学金を必要とする場合は、その状況がわかるよう、具体的に説明してください。

(記入必須)

4 ページへ続く

7. 卒業予定期 ※ 卒業予定期とは、最終授業／試験が行われる月をいいます。

(1) 卒業予定期について、(a)または(b)のどちらかの□に✓を入れ、に記入してください。

(a) 在籍証明書に卒業予定年月の記載がある場合

↳ 在籍証明書に記載の卒業予定年月を記入・・・ 年 月 卒業予定

(b) 在籍証明書に卒業予定年月の記載がない、または、卒業予定期が学期（セメスター）で記載されている場合

↳ 学校関係者と相談のうえ決定した卒業予定年月を記入・・・ 年 月 卒業予定

※アカデミックカレンダーで確認できる
最終授業／試験月を卒業予定月とすること。

※ 在籍証明書は2018年（平成30年）12月1日以降に取得したものでないと、不備となり改めて取得していただきます。

(2) 奨学金貸与終期と卒業予定期について(a)または(b)のどちらかの□に✓を入れてください。

あなたの奨学金貸与終期

年 月

←転記してください

(a) あなたの奨学金貸与終期と上記（1）で記入した卒業予定年月が一致する。

(b) あなたの奨学金貸与終期と上記（1）で記入した卒業予定年月が一致しない。→ 下記①～⑨のいずれかに☑

- ※(b)を選択した場合は、必ずその理由を①～⑨から選択すること。
- ①在籍証明書には卒業式の月又はビザの在留期限が記載されている（実際より長く記載されている）が、最終授業／試験月はそれより早く行われるため。
 - ②当初の予定（奨学金貸与終期）より早く卒業することになったため。
 - ③同一学校内で専攻を変更（転学部・転学科）したことにより卒業期が早まった（又は延びた）ため。
 - ④学校を変った（編入学した）ことにより卒業期が早まった（又は延びた）ため。
 - ⑤学校のカリキュラム変更により、卒業期が延びたため。
 - ⑥成績不振により修得単位数が極めて少ない（又は皆無の）学期があり、卒業期が延びたため。
 - ⑦自己都合により履修科目数が極めて少ない（又は皆無の）学期があり、卒業期が延びたため。
 - ⑧成績が進級の基準を満たさず、卒業期が延びたため。
 - ⑨過去に休学した期間があり、卒業期が延びたため。

※ ③～⑤（転学部・転学科、編入学、カリキュラム変更による卒業延期）に該当する場合は、異動手続きが必要です。

※ ⑨について、現在休学中の場合は、至急奨学金を休止するための異動手続きが必要です。

※ 異動手続きについては「奨学金継続の手続きについて」4ページを参照してください。

8. アンケート（記入必須）

奨学事業実施上の参考とするため、次のアンケートにお答えください。

なお、このアンケートは、奨学金継続願の内容に影響を及ぼすものではありません。

設問1：奨学金が受けられなかった場合についてお答えください。

(該当の□に✓)

- 修学が困難（不可能）となる。
- 修学は可能だが、自分が学びたい分野や学校での修学は困難となる。
- 修学は可能だが、アルバイト等が不可欠で、勉学に支障が出る。

設問2：奨学金の貸与を受けたことによって、勉学に励む時間が変化したかどうかお答えください。

(該当の□に✓) 増加した やや増加した あまり変わらなかった

設問3：現在、貸与を受けている月額についてお答えください。

(該当の□に✓) 適切である 少ない 多い

設問4：設問3で「少ない」、「多い」を選択した方は、あなたが適切だと思ふ貸与月額を〔 〕に記入（万単位）してください。なお、本設問に回答された月額の貸与が受けられるわけではありません。

〔 〕万円